事務事業評価シ	-	(事:	後評·	価)	١

		曲シート	、(事後評値	曲)						
事業	コード	事務事	業名				所	管部課		
	7-2-2 商業者と生活者による商店街・まちづくりの推進(街なかサロン運営含む) 生活環境部 産業振興課									
施笛	6年コード 施策名 施策目標									
)地外口1赤					
	活1-1 産業の振興				市内の農業・商工	業を振興し、地域総	経済の発展をめざします。			
	事務事業の	の目的							根拠法令等	
									□法律	
	生活者と	商業者の	とが目由に註	iし合える場	を設定す	「るなど、交流機会を	 充実させることに の活性ルキ図ュー	より、生活者と商業者と		
	パートナーシップに基づいた商店街づくり・まちづくりを促進し、商店街の活性化を図ることを目的とする。 □ 政令・省令 ☑ 要網・要領									
事	事業市家.									
務事		事業内容·実施方法等 / 補助の概要: 補助団体の概要(団体名·団体の活動内容·補助金の活用内容等)、補助金の概要(国·都 基準の有無·対象者拡大の有無·上乗せ補助額·市単独補助額)等 該当する予算事業名·節目を明記する								
業										
の								対し、商工会通じて補助: 的としており、サロン整備		
概	としている。							限3万円)であり、家賃費		
要	象となる。 「生活者と	商業者の)衣流事業。出	お業者と消	当費者を含	全む 季昌 全を閉催し	商店街の活性化施	策について年度ごとにテ・	ーマを設定して総合的	
	に議論する	場であり、	この委員会開	昇催に係る費	用を補助	するものである。平成	19年度は「マップに	よる商業や地域資源等の		
						の見直し」の議論を行		業者の交流機会充実事業	Ĕ ᅔᆥᅲᄼ	
							_			
	事業開始	10円期	[父流19] [サ]	コン16] 年度	実施形	態 直営│	」委託 ☑ 補助	□その他()	
		項	目		単位	18年度	19年度	20年度	21年度	
	事業費(A)					720	2,2	70 523	460	
	_{n+} 国庫支	出金·都	支出金							
	源 地方債				千円				1	
事業	内その他	()						
業	訳 一般財	\ 酒				720	2,2	70 523	460	
費デ	-	-			人	0.10	0.			
ĺĺ	所要人員(L (D)							
タ	人件費(C):				千円	816	8:	27 817	817	
	臨時職員等		<u> </u>		千円					
	総コスト(D	, , , ,	(C')		千円	1,536	3,0	97 1,340	1,277	
	単位当たり									
	(E)=(D)/	(サロンの支払	爰数)	千円	768	154	8 1340	1277	
		活動	协等指標		単位	18年度	19年度	20年度	21年度	
	サロンの)支援数		実績値	箇所	2		2 1	1	
	委員会院	開催数		実績値	回	=		4 5		
			変化の理由		l		<u> </u>			
評										
価指										
標		成	果指標		単位	18年度	19年度	20年度	21年度	
の	_			目標値						
設	次			実績値						
定	_			目標値						
	次			実績値	[
	(指標の説	明·数值	変化の理由	など)	•				-	
				_	平成1	9年度に作成した商	店街マップアンケ		店街によってみた	
	市民·関連団体等の意見 (アンケート結果など)		平成19年度に作成した商店街マップアンケートより「マップを手に商店街によってみた いか?」「寄ってみたい。(43%)」「寄ってみたいと思わない。(11%)」「どちらともいえな							
事	'	()) -	一つ和木なし)	l 1。(45	%)」となって いる 。				
事業環					☑上					
環境			ービス水準と				施策として、サロン	の設置について支援を	£行っている事例は	
境等	(平均値、本市の順位など)		□							
₹					= -					
代替·類似サービスの有無										

	事務事業名 商業者と生活者による商店街・まちづくりの推進(街なかサロン運営含む)		部産業振興課
施策コード	施策名	施策目標	
活1-1	産業の振興	市内の農業・商工業を振興し、地域経済	の発展をめざします。

【一次評価】

	検証項目	ランク		一次評価	検証項目、評価の判断理由 事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	事業の優先 度(緊急性)	1	事業の優先 度(緊急性)	□拡充	街なかサロンは、他の自治体で支援をしている 例が少なく、メディアに取り上げられるなど商店街 の知名度の向上に寄与している。
Α	事業の 必要性	2	市民ニーズ 事業の 必要性	□継続実施	しかし、商店街の希望により設置するものであり、 現在の補助内容で設置を希望する商店街は少な い。今後は街なかサロンの効果を検証し、必要で
	事業主体 の妥当性	1	受益者負担 の適切さ 事業主体 の妥当性	☑ 改善·見直し	は、
	直接のサービ スの相手方	1	事業内容等 直接のサービス の適切さ の相手方	□抜本的見直し	主活有と商業有の交流事業は、バードブージップによる商店街の活性化施策の検討・実施に有効であり、継続的に実施する必要がある。
В	事業内容等 の適切さ	1		□休止	
	受益者負担 の適切さ	3	検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目	□廃止	
С	市民ニーズ の把握	1	B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目		

【二次評価】

	検証項目	ランク		二次評価	検証項目、評価の判断理由 事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	事業の優先 度(緊急性)	1	事業の優先 度(緊急性)	□拡充	生活者と商業者の交流は、パートナーシップによる消費者ニーズの把握や情報交換を行うことにより、最新の動向を把握し、商店街の活性化へと結
Α	事業の 必要性	1	市民ニーズ 事業の の把握 必要性	□継続実施	びつけて行くために必要なことと考える。 街なかサロンについては、初期経費と2年間の家 賃の補助となっているが、継続的に運営をし、地
	事業主体 の妥当性	1	受益者負担の適切さの受当性	□改善·見直し	域での交流の機会としていくためには、エコ商品、 地元特産品、子育てや高齢者向けの商品等の情 報拠点づくり、NPO法人や大学等とのコラボによ
	直接のサービ スの相手方	1	事業内容等 直接のサービス の適切さ の相手方	☑ 抜本的見直し	る消費者サポートの基地など商店街での位置づけ や他分野との連携等による付加価値の創出を提
В	事業内容等 の適切さ	1	検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目	□休止	示する必要がある。 街なかサロンの必要性を検証し、そのあり方の見 直しを図りながら、空き店舗の活用等につなげて
	受益者負担 の適切さ	3		□廃止	いくよう再構築するとともに他の方法による生活者 と商業者の交流機会の創出についても調査研究 を行い、事業の充実を図られたい。
С	市民ニーズ の把握	1	B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目		

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
□ 継続実施 □ 改善・見直し ☑ 抜本的見直し	街なかサロンなどにより商業者と生活者の交流の推進を図る本事業は、地域の活性化を図るうえでは重要と考えられるが、現状では具体的な効果が見えづらい。 今後は、街なかサロンの必要性や事業のあり方を検証し、空き店舗の活用など具体的な効果が期待できる交流のあり方を検討されたい。
□ 休止 □ 廃止	